

## NICU と新生児搬送の経済効率

(分担研究：新生児救急医療システムに関する研究)

鬼頭 秀行 犬飼 和久

〔1〕研究目的：新生児医療の地域化が進み、各地に NICU が設立され新生児死亡率は今や世界 1, 2 を争う低い国となった現在、この新生児の生存を可能にしたのは NICU の設備・医療機器の充実とそれを支える医療スタッフの日夜にわたるエネルギー活動にある。現在の NICU はこの活動に見合うだけの経済効率すなわち医療経済上の優遇性が与えられているかどうかを当院 NICU および新生児搬送について検討した。

〔2〕研究対象および研究方法：昭和61年度および昭和62年度の聖隷浜松病院新生児未熟児センターにおける収入および支出の両面について検討しその経済効率について検討した。また当院においては NICU 発足当初より静岡県西部地域の新生児搬送を専用救急車を用いて行っているがその経済性についても同様に検討した。

〔3〕結果：

(1) NICU の収支決算 (表 1)

表 1 に示すごとく昭和61年度、62年度の収入－支出はそれぞれ4,688万円の赤字決算であった。昭和61年に比べ62年度での赤字増加要因は病床を34→44床へ増床したための増改築および備品購入に伴う人件費増、減価償却費の増加にある。このため直接人件費が60%となりこれが経営に大きな影響を与えている。

(2) 新生児搬送の経営 (表 2)

表 2 に示すごとく搬送件数は61年267件、62年度249件と大きな変化はない。搬送費用に関しては県より年間300万円の補助を頂いているが、車輛の減価償却費が高額のため収支決算で

表 1 NICU 収支決算 単位万円

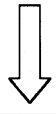
|              | 昭和61年   | 昭和62年   |
|--------------|---------|---------|
| 総入院数         | 354名    | 375名    |
| 〈収入〉         |         |         |
| 診療報酬         | 41,778  | 44,278  |
| 雑収入          | 2,670   | 2,736   |
| 審査減          | － 106   | － 229   |
| 〈収入合計〉       | 44,342  | 46,785  |
| 〈支出〉         |         |         |
| 人件費          | 25,830  | 28,230  |
| 注射・薬品費       | 1,207   | 958     |
| 診療材料費        | 2,874   | 3,406   |
| 通信・事務費       | 824     | 1,085   |
| 修繕・光熱費       | 1,597   | 1,462   |
| 減価償却費        | 1,964   | 3,287   |
| 研修費          | 121     | 72      |
| 診療部門費        | 14,613  | 1,887   |
| 〈支出合計〉       | 49,030  | 54,392  |
| 収入－支出        | － 4,688 | － 7,607 |
| 直接人件費<br>総収入 | 58.3%   | 60.3%   |
| 人件費<br>総支出   | 52.7%   | 51.9%   |
| 原価率          | 110.6%  | 116.2%  |

表 2 新生児搬送の経営

| (1) 救急車購入費 (S 58 年, 改造費含む) 3,000 万円<br>(減価償却費 570 万円/年間) |         |         |
|--|---------|---------|
| (2) 搬送件数   | 昭和 61 年 | 267 件   |
|  | 昭和 62 年 | 249 件   |
| (3) 搬送の収支  | 単位, 万円  |         |
|  | 昭和 61 年 | 昭和 62 年 |
| <収入>   |         |         |
| 患者負担搬送費  | 180.2   | 166.6   |
| 往診費  | 275.5   | 250.0   |
| 県からの補助   | 300.0   | 300.0   |
| <収入合計>   | 755.7   | 716.6   |
| <支出>   |         |         |
| 燃料費  | 43.8    | 39.0    |
| [車両修理代]  |         |         |
| 消耗品  | 84.4    | 82.5    |
| 人件費  | 173.5   | 161.8   |
| 減価償却費  | 570.5   | 570.0   |
| <支出合計>   | 871.7   | 853.3   |
| 収入－支出  | -116.0  | -136.7  |

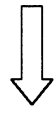
は年間116万円, 136万円の赤字となっている。

〔4〕考察：NICU の経済性を論ずる場合問題となるのは質と量である。すなわち経済効率を良くするためには支出面を如何に減少させるか（人件費, 消耗物品費, 資産購入に伴う減価償却費など）ということであり, これらの減少は NICU の医療の質そのものに影響を与えることになり, これは量と質に関わる重要な問題である。経営面から見ればこの量と質を如何なる点で妥協させるかにかかっている。当院 NICU は医師10名（小児科兼務）, 看護婦45名, 看護助手4名, 事務兼運転手1名, ME 技師1名の構成から成り夜勤は医師1名, 看護婦8名である。現在 NICU 重症加算病床はなく今後 NICU 経営状態改善のためには人件費の補助等を含めた医療保険上の優遇措置が望まれる。新生児搬送についても同様に減価償却費がその経営を大きく圧迫している現状からみて制度的に新生児搬送を認め運行に対する補助をも含めた措置が望まれる。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔1〕研究目的:新生児医療の地域化が進み,各地にNICUが設立され新生児死亡率は今や世界1,2を争う低い国となった現在,この新生児の生存を可能にしたのはNICUの設備・医療機器の充実とそれを支える医療スタッフの日夜にわたるエネルギッシュな活動にある。現在のNICUはこの活動に見合うだけの経済効率すなわち医療経済上の優遇性が与えられているかどうかを当院NICUおよび新生児搬送について検討した。